

モモ病虫害の発生状況（7月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) 灰星病

果実での発生は確認されませんでした。
 収穫期の20日前頃から果実への感染がしやすい状態になるため、散布間隔をあげずに薬剤散布を実施しましょう。

(2) せん孔細菌病

新梢葉、果実での発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図1、2）。
 発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

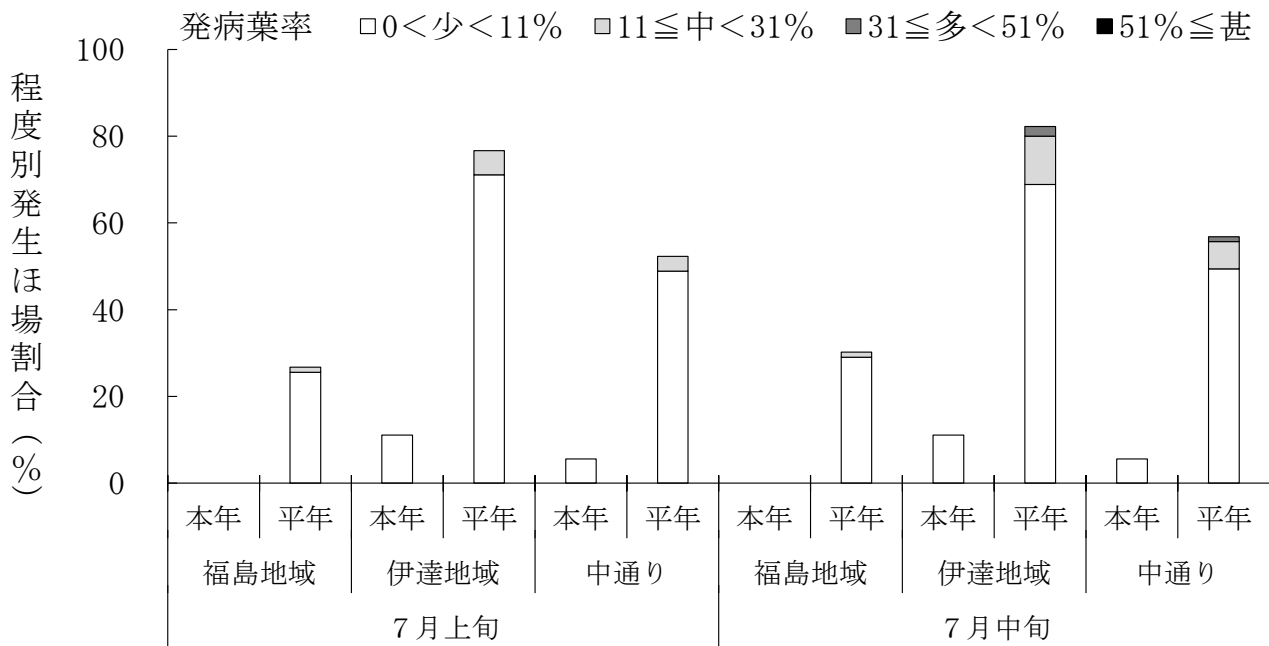


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）

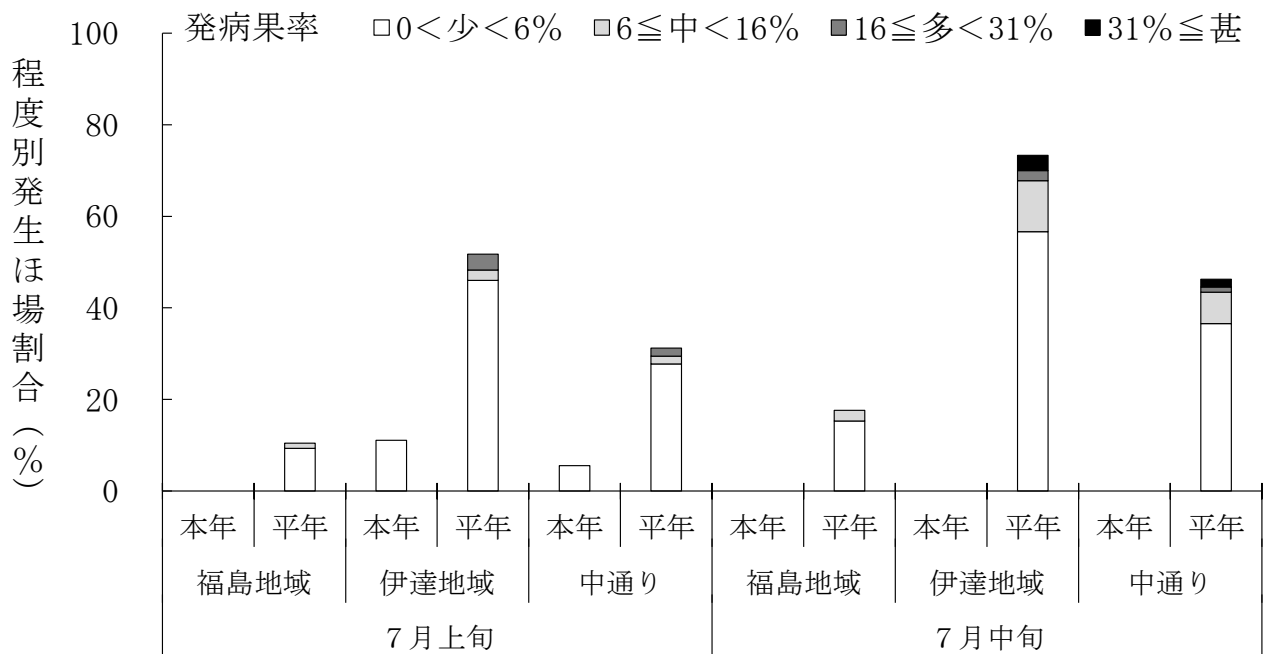


図2 モモせん孔細菌病の発生状況（果実）

(3) モモハモグリガ

新梢葉被害の発生ほ場割合は平年並でした（図3）。

園地を見回り、発生が多いほ場では収穫後であっても薬剤散布を実施しましょう。

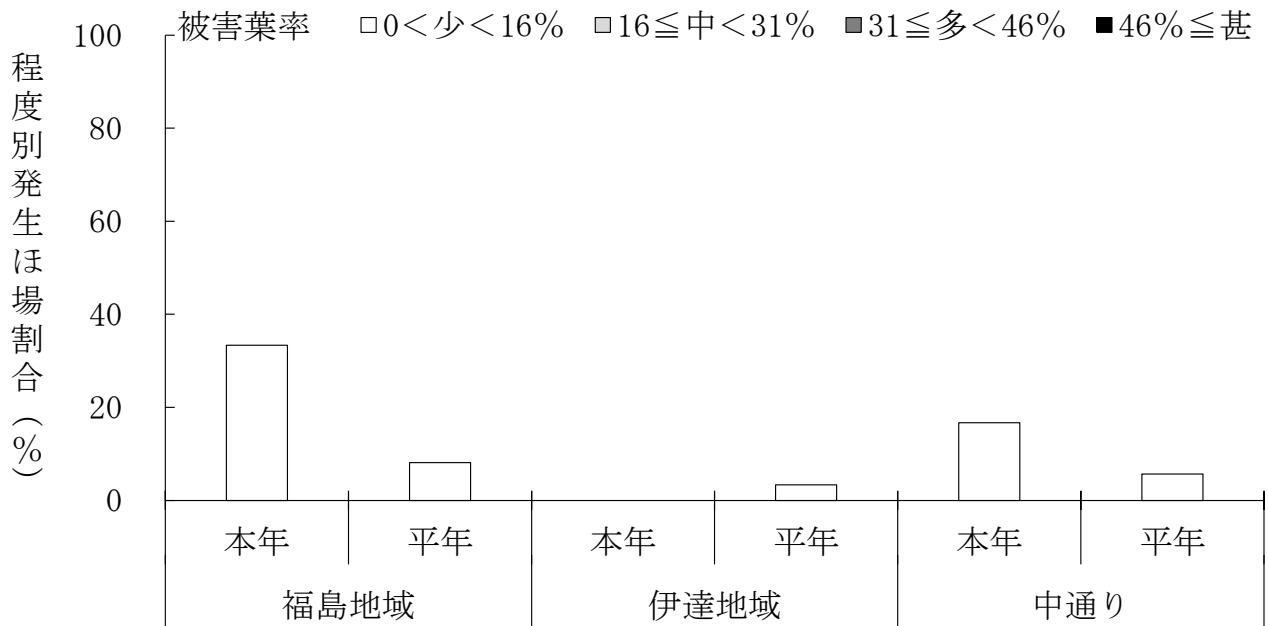


図3 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況 (新梢葉)

(4) ハダニ類

新梢葉での寄生ほ場割合は、平年並～やや高い状況でした（図4）。

園地での発生状況をよく観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

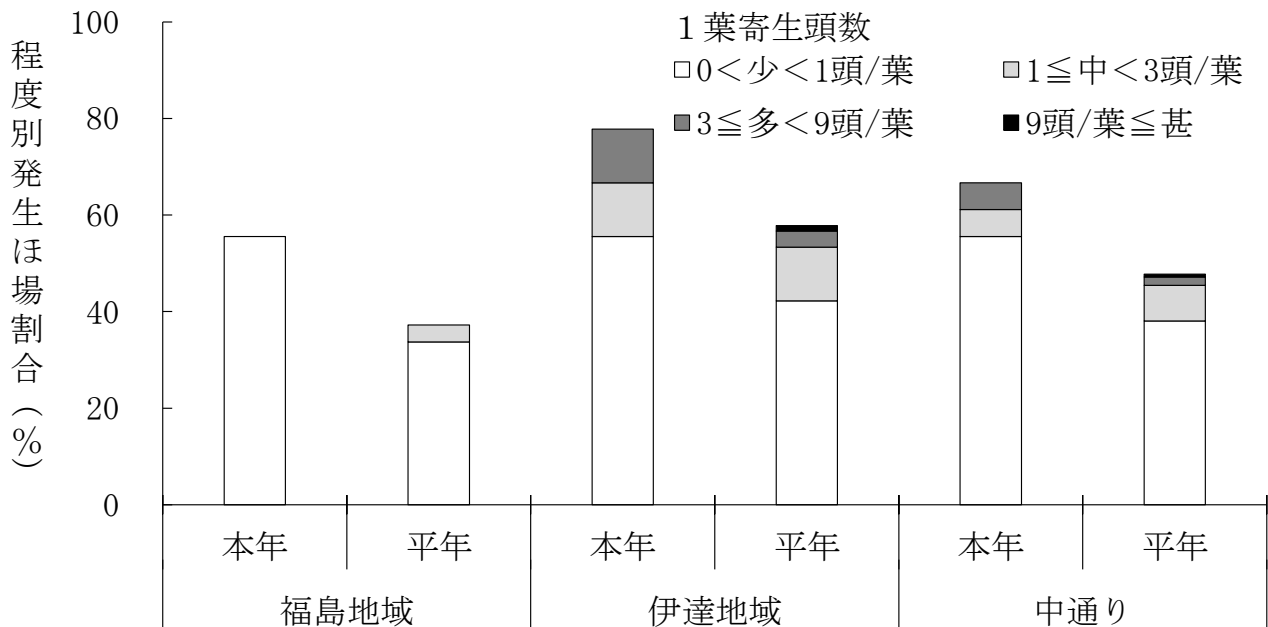


図4 ハダニ類による新梢葉への寄生状況

(5) ナシヒメシンクイ

本種による7月上旬のモモ新梢の芯折れ被害の発生ほ場割合が6割程度と平年より高い状況でした(図5)。また、この時期に確認されていない「中」発生ほ場が多数見つかっています。本種第3世代成虫の誘殺盛期は、気温が2℃高く推移した場合、8月2半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されています(農業総合センター果樹研究所、7月26日現在)。

近隣のモモやウメ等の芯折れの発生状況に注意し、県農作物病虫害防除指針や地域の防除暦を参考に、農薬使用基準を遵守し、防除を徹底しましょう(令和6年7月30日付け令和6年度病虫害防除情報(ナシヒメシンクイ)参照)。

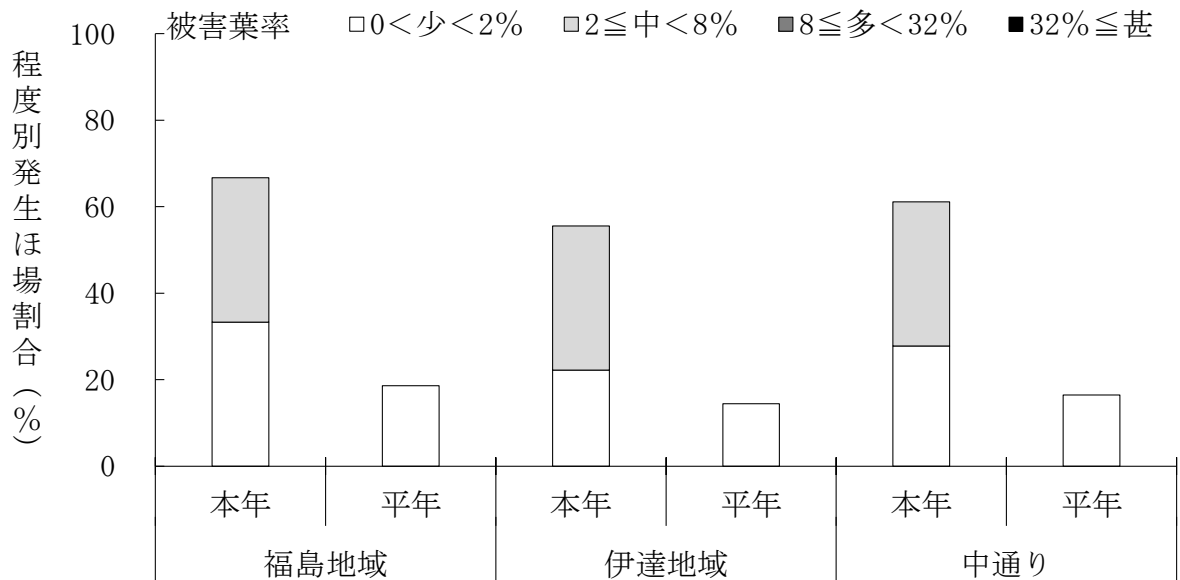


図5 ナシヒメシンクイによる新梢の被害状況 (7月上旬)

(6) シロカイガラムシ類

側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生ほ場割合は、平年よりやや高い状況で、特に伊達地域が目立っていました(図6)。

ウメシロカイガラムシの幼虫発生期は、通常、第2回目が7月下旬～8月中旬であるため、発生が多い場合は、県農作物病虫害防除指針や地域の防除暦を参照して防除してください。

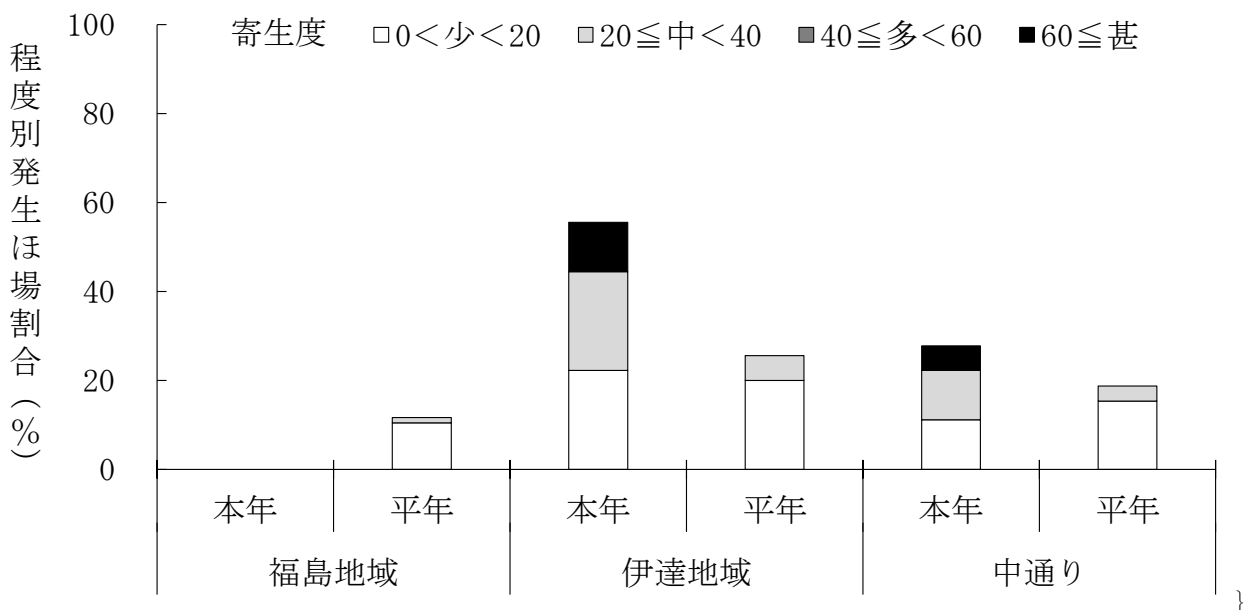


図6 シロカイガラムシ類による側枝の寄生状況 (7月中旬)

(7) 果樹カメムシ類

7月中旬の果樹カメムシ類による果実被害の発生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや高く、伊達地域では被害が確認されませんでした（図7）。

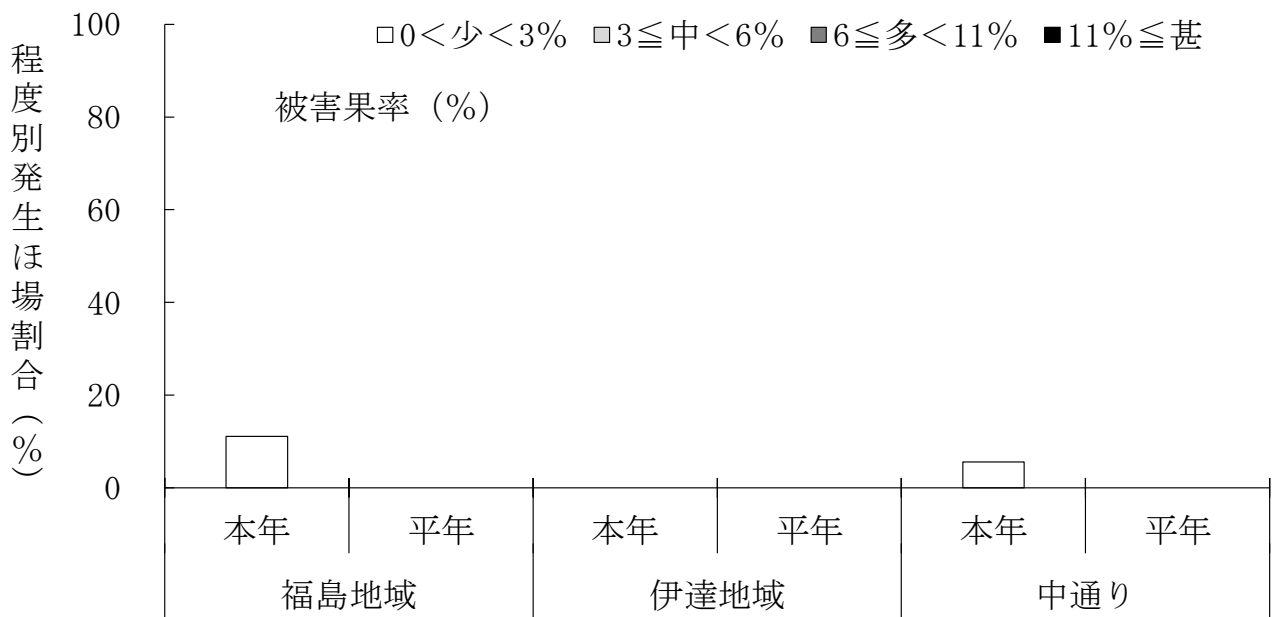


図7 果樹カメムシ類による果実被害の発生状況（7月中旬）